

題材名 曲想を感じ取ろう

指導者 大塚美由紀

児童：5年1組 24名

場所：音楽室

1. 題材の目標

曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり、表情豊かに表現したりすることができるようにする。
曲想や歌詞の内容を感じ取って、表現の仕方を工夫することができるようにする。

2. 教材名 「秋にさよなら」「わり鳥と少年」「アイネ クライネ ナハトムジーク第3楽章」 「キリマンジャロ」

3. 題材について

題材観

本題材は、平成20年度改訂の新学習指導要領の2内容A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)アについて設定した。この題材では、曲想の変化を感じ取って音楽を想像豊かにとらえる感性を育てたり、歌詞の内容や曲想を生かして表情豊かな表現を工夫していく能力を育てたりすることがねらいである。

「わり鳥と少年」は、8分の6拍子の短調の曲である。歌詞は、早春を迎えた渡り鳥が飛び立つ風景と少年の心情を表している。歌詞の内容から、情景や少年の心情をイメージしたり、音楽を形づくっている要素を手がかりにしたりして、思いや意図をもって曲想豊かに表現を工夫できる教材である。また、リコーダーや低音楽器を加えることにより、情感がさらに豊かに表現できると考える。

児童観

本学級の児童は、歌を歌うことが好きで、気持ちをこめて歌を歌おうとする姿が多くみられる。また、イメージを膨らませて曲の雰囲気をつかむ学習もしている。しかし、音楽を形づくっている要素から曲をとらえる学習は不十分で、曲想について演奏方法を工夫したりする経験や、いろいろな楽器で演奏するなどの経験も少ない。

鑑賞においては、音楽の要素をいくつかにしぼって曲を聴く学習はしている。しかし、要素について細かく聴き取ったり曲の構成を考えながら聴いたりする学習は不十分である。

指導観

指導にあたっては、短調の気分を感じて歌う学習では、短調の曲の感じをとらえさせるため、八長調の曲と比較させたり、旋律の感じをとらえさせたりする。また、曲想を表現するために必要な音楽の要素を、具体的に曲の中にどのように取り入れて表現していくかなどの工夫を考えていくグループ活動も取り入れたい。

鑑賞活動では、アとイの旋律の感じの違いによる曲想の変化や曲の構成について感じ取らせるため、体を動かす活動を取り入れ、曲想が変化したところでは体の動かし方を変化させるなどしていく。そして、ア、イそれぞれの部分の旋律の感じの違いを音楽の要素でとらえさせ、言葉で表現する活動も工夫したい。

曲想を生かして合奏する学習では、グループ活動を工夫するとともに、旋律やリズムの特徴、響き音色、速度、強弱などを工夫して、曲想を表現できるよう指導していきたい。

4. 題材の評価規準

A表現(1)イ(2)イ, B鑑賞(1)ア

	ア 音楽への関心・意欲 態度	イ 音楽的な感受や表現 の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	想像豊かに聴いたり, 曲 想に合った表現をしよう としたりしている。	歌詞の内容や音楽を形づくっ ている要素から, 曲想を感じ取り, 表現の仕方を工夫している。	歌詞の内容や曲想を生 かして, 歌ったり, 演奏 したりしている。	曲想の変化を感じ取って 聴く。
学習活動における 具体的評価規準	短調の曲の感じに関心 をもっている。 曲に関心をもち, 主旋 律の感じをつかんでい る。	曲のイメージを感じ取り, 主 旋律とリコーダーパートの音 程やリズムをつかんでいる。 へ音記号の意味を理解し, 低 音パートの感じをつかんでい る。 1拍目を意識してタイミング を合わそうと工夫している。 強弱や速さを工夫している。 1拍目を感じてタイミングを 合わそうと工夫している。 スタッカートやリズムの演奏 の仕方を工夫している。	強弱や速度に気を付 けて歌ったり演奏し たりしている。 強弱や音量に気を付 けて演奏している。	アイアの構成やアとイ の旋律の違いを感じ取 って聴くことができる。

5. 題材指導計画(全11時間)

次	時	教材	主な学習活動	評価の観点				
				関	感	技	鑑	評価規準(評価方法)
一	1	「秋にさよなら」「静かにねむれ」	<p>「曲想を感じ取るう」の学習の見通し をもとう。</p> <p>学習計画を立てる。</p> <p>1 学習計画を立てる。 「秋にさよなら」「静かにねむれ」 : 曲の感じのちがいをを見つける。</p> <p>2 「わたり鳥と少年」 : 曲のイメージをつかむ。 : 主旋律を歌う。 : 対旋律のリコーダー奏をする。</p> <p>3 : 低音楽器の演奏をし, パート練習をする。</p> <p>4 : パート・グループ練習をする。</p> <p>5 (本時) : グループで曲想を工夫する。</p> <p>6 : 全体のまとめの演奏をする。</p> <p>7 「アイネ クライネ ナハト ムジーク」 : 全体を通して聴く。 : 部分を聴き比べる。</p> <p>8 「キリマンジャロ」 : 曲の感じをつかむ。 : 主旋律のリコーダー奏をする。 : 鍵盤ハーモニカ奏をする。</p> <p>9 : 個人・パート練習</p> <p>10 : パート練習・全体練習</p> <p>11 : パート練習・全体練習 : 曲想を生かしてまとめの演奏をする。</p> <p>「秋にさよなら」「静かにねむれ」の主 旋律を歌い, 曲の感じを比べる。</p> <p>「秋にさよなら」「静かにねむれ」の 旋律の感じの違いが分かったよ。</p>					短調の曲の感じに関心をもっ ている。ア- (発言) Aの姿: 短調と長調の感じの違いに ついて, 進んで気付いたことを発 表している。 Cの児童への手立て: 「秋にさよ なら」「静かにねむれ」を短調 長調, 長調 短調にして聴かせ, 曲の感じを比べる。

二 短調の気分を感じ取って演奏しよう	2	「わたり鳥と少年」	<p>「わたり鳥と少年」の曲のイメージをつかみ、歌ったりリコーダーを演奏したりしよう。</p> <p>・歌詞・旋律 「わたり鳥と少年」を聴き、曲のイメージをつかむ。 主旋律を歌詞唱する。 リコーダーパートを階名唱し、リコーダーで演奏する。</p> <p>曲のイメージや主旋律、リコーダーパートの音程、リズムがつかめたよ。</p>				<p>曲のイメージを感じ取り、主旋律とリコーダーパートの音程やリズムをつかんでいる。イ - (観察・聴取)</p> <p>Aの姿: 曲のイメージについて発表したり、主旋律とリコーダーパートの音程やリズムをつかんだりして演奏している。</p> <p>Cの児童への手立て: 友だちの意見を参考にさせたり、傍でゆっくり演奏したりする。</p>
	3		<p>低音パートをつかみ、パートに分かれて練習しよう。</p> <p>・ヘ音記号・運指 ヘ音記号の意味を知る。 低音パートを演奏する。 グループ内でパートを決める パート練習をする。</p> <p>ヘ音記号の楽譜が分かったよ。自分のパートがつかめたよ。</p>				<p>ヘ音記号の意味を理解し、低音パートの感じをつかんでいる。イ - (観察・聴取)</p> <p>Aの姿: ヘ音記号の楽譜が正しく読め、低音パートや自分のパートをつかんで演奏している。</p> <p>Cの児童への手立て: 低音パートの階名唱をしながら傍で運指をいっしょにする。</p>
	4		<p>タイミングを工夫して合わせよう。</p> <p>・拍子(1拍目)・ブレス パート練習をする。 グループ練習をする。</p> <p>1拍目やブレスを工夫すると、タイミングが合うようになったよ</p>				<p>1拍目を意識してタイミングを合わせようと工夫している。イ - (観察・聴取)</p> <p>Aの姿: 拍子(1拍目)・ブレスについて気付きを言ったり、各パートを聴きながらタイミングを工夫したりしている。</p> <p>Cの児童への手立て: 口の開け方や声の響かせ方、指の運び方など、手本を見せながら指導する。</p>
	5 (本時)		<p>曲の感じが表現できるよう、曲想を工夫しよう。</p> <p>・速さ・強弱 グループで曲想を工夫する。 グループ発表をして話し合う。</p> <p>強弱や速さを工夫すると、曲の感じがもっと表現できたよ。</p>				<p>強弱や速さを工夫している。イ - (観察・聴取)</p> <p>Aの姿: 強弱や速さを工夫したり、適切な意見を言ったりしている。</p> <p>Cの児童への手立て: 友だちの考えを参考にさせる。実際に演奏して考えさせる。</p>
	6		<p>全体のバランスを考えて曲想を生かしたまとめの演奏をしよう。</p> <p>・強弱・速度・音量 1番から3番まで通して練習をする。 録音を聴いて気付きを交流する。 まとめの演奏をする。</p> <p>曲想をつけて演奏をすることができたよ。</p>				<p>強弱や速度に気を付けて歌ったり演奏したりしている。 ウ - (発言・聴取)</p> <p>Aの姿: 録音を聴いて気付きを言ったり、強弱・速度・バランスをうまく表現したりしている。</p> <p>Cの児童への手立て: 息の吸い方や支え方、声の響かせ方を個別指導する。友だちの声を聴かせる。</p>

三 曲想の変化を感じ取って聴いたり演奏したりしよう	7	<p>「アイネ クライネ ナハト ムジーク第3楽章」の曲想の変化を感じ取ろう。</p> <p>全体を聴き、曲想の変化に気付く。 ・曲の構成 部分を聴いて曲の感じを聴き比べる。 ・旋律の感じ 全体を通して聴く。 ・曲の構成・旋律の感じ</p> <p>アイアの構成や旋律の感じの違いが感じ取れたよ。</p>				<p>アイアの構成やアとイの旋律の違いを感じ取って聴くことができる。 <エー> (発言・ワークシート・観察・聴取) Aの姿:アイアの構成やアとイの旋律の違いを感じ取って聴き、自分の言葉で的確に表現している。 Cの児童への手立て:曲想が変わるところでは、カードを活用して視覚でとらえさせたり、手を挙げさせたり、友だちの感想を参考にさせたりする。</p>
	8	<p>「キリマンジャロ」の曲の感じをつかみ、主旋律を演奏しよう。</p> <p>・曲の構成と諸要素・階名・リズム 範奏を聴き、曲の感想や気づきを交流する。 ・曲の構成と諸要素 キリマンジャロの主旋律のパートを階名唱し、鍵盤ハーモニカで練習する。 ・階名・リズム 他のパートを知り、パート分けをする。</p> <p>曲の感じや主旋律がつかめたよ。</p>				<p>曲に関心を持ち、主旋律の感じをつかんでいる。ア (観察・発言・聴取) Aの姿:曲の感じについて、要素を使って意欲的に発表し、リズムや音程を正しくつかんでいる。 Cの児童への手立て:友だちの意見を参考にさせる。階名を所々に付けた楽譜を用意する。</p>
	9	<p>タイミングを工夫して、合わせよう。</p> <p>・4/4拍子・フレーズ 個人練習をする。 パート練習をする。 全体で合わせる。</p> <p>4/4拍子やフレーズを感じ取ると、合うようになったよ。</p>				<p>1拍目を感じてタイミングを合わせようと工夫している。イ (観察・聴取) Aの姿:みんなの音を聴きながら、拍やフレーズを感じ取り、タイミングを工夫している。 Cの児童への手立て:手で拍を取ったり、階名やリズムを口ずさんだりしながら一緒に練習する。</p>
	10	<p>曲の特徴を生かした演奏の仕方を工夫しよう。</p> <p>・スタッカート・リズム パート練習をする。 全体練習をする。</p> <p>スタッカートやリズムの演奏の仕方を工夫すると曲の感じが表せるね。</p>				<p>スタッカートやリズムの演奏の仕方を工夫している。イ (活動観察・聴取) Aの姿:スタッカートやリズムの特徴を生かした演奏の仕方を工夫したり、気づきを言ったりしている。 Cの児童への手立て:スタッカートのタンギングを個別指導する。</p>
	11	<p>曲想を生かして、バランスのよい合奏をしよう。</p> <p>・強弱・音量 全体練習をする。 録音して聴く。 全体練習をする。 まとめの演奏をする。</p> <p>強弱や音量に気を付けると、キリマンジャロらしい合奏になったね。</p>				<p>強弱や音量に気を付けて演奏している。ウ (観察・聴取) Aの姿:強弱や音量に気を付けて気づきを言ったり、全体を聴きながら曲想を生かして演奏したりしている。 Cの児童への手立て:強弱について個別指導する。同じパートの音や全体の音楽をよく聴かせる。</p>

6. 本時の目標

曲の感じが出るように曲想を工夫することができる。

7. 本時の展開

	学習活動	主な発問(発)と指示(指)と児童の反応(・)	指導上の留意点(・)と手立て()	評価規準(評価方法)
つかむ	1. 「わたり鳥と少年」を歌う。	(指) 曲のイメージを感じながら歌ったり演奏したりしましょう。	・ 表現活動への意欲が高まるよう、学習の雰囲気づくりをする。	
	2. 学習課題をつかむ。	曲の感じが表現できるよう、曲想を工夫しよう。		
あらわす	3. グループで曲想を工夫する。	<p>(発) 曲の感じをもっと出すために工夫したらよいポイントは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強弱・速さ <p>(発) 曲の感じを考えるために何に着目したらよいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞 ・ 旋律の上向, 下向 ・ くりかえし <p>(指) グループに分かれて曲想を工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2段目の1小節目はやや強く歌った方がよい。理由は音が一番高いから。歌詞も心がこもるから。 ・ 3番の最後のところは、ゆっくり演奏した方がよい。理由は歌詞が「さよならさよなら」となっているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽ポケットのポイントを意識させる。 ・ 解決ポケットを参考にさせる。学習の流れを板書する。 ・ 決定したら楽譜に書き込ませる。グループ練習の仕方を示したカードを持たせる。 	<p>強弱や速さを工夫している。イー(観察・聴取)</p>
深める	4. グループ発表をし、話し合う。	<p>(発) グループで考えた曲想を説明し演奏しましょう。</p> <p>(発) グループの曲想の工夫について意見はありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段目の~のところが歌詞の内容を考えて p を入れていたのがよい。 ・ 繰り返しは、初めは強めで後は弱めにしたのがよい。 ・ 上向きの旋律の強弱を工夫した方がよい。 ・ 全体的に少し速く演奏しているが曲の雰囲気あまり合っていないのでもう少しゆっくり演奏した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループの工夫した点とその理由を明確にさせる。 ・ 工夫したことを生かして演奏させる。 ・ 考えさせたいところを深める。 	<p>Aの姿：強弱や速さを工夫したり、適切な意見を言ったりしている。</p> <p>Cの児童への手立て：友だちの考えを参考にさせる。実際に演奏して考えさせる。</p>
まとめる	5. まとめの演奏をする。	(指) みんなで1番から3番まで演奏しましょう。	・ 強弱や速度を書きこんだ楽譜を提示する。	
	6. 学習のまとめをし、次時への課題を知る。	<p>(発) 今日のふり返りをしましょう。</p> <p>(指) まとめを言いましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードを用意する。 ・ 一人一人にふり返りをさせる。 	
		強弱や速さを工夫すると、曲の感じがもっと表現できたよ。工夫すると、曲の感じが豊かになったね。		